



# 尾久西だより

荒川区立尾久西小学校  
発行日 平成28年9月1日  
発行者 校長 末永 寿宣

No. 307 9月号

## 読書は心を育てる最良の方法

～本に親しみ、生き生きと学ぶ子供を育てる

校長 末永 寿宣

荒川区では、より発展的な学校図書館運営を行い、学校における言語活動の充実、とりわけ国語力の向上に資するために、専門職として学校司書を全校に週5日間常駐配置しています。

本校では、区の施策を最大限活用し、学校図書館環境の充実を進めているところです。中でも蔵書数は文部科学省図書標準の160%に達しており、図書館施設におきましても、第1図書館、第2図書館に加え、今年から第3図書館を多目的スペースとして設置いたします。旧コンピュータールームをリニューアルし、9月下旬からの運用を目指しております。また、教員による学校図書館部では、学校司書、司書教諭、担任が、指導計画に基づいて学校図書館をさらに充実させ、子供たちが活用しやすいように運営しております。さらに、保護者の皆様には「図書ボランティア」としてご協力をいただき、読み聞かせ等が充実し、本好きの子供が増えています。ご協力に感謝申し上げます。

今年度、本校は子供たちが本に親しみ、学校図書館を活用し生き生きと学ぶために、以下の3つの研究を進めております。

- 「東京都言語能力向上拠点校」<東京都教育委員会指定>平成29年1月24日発表  
・古典文学の音読や暗唱、説明や討論等の言語活動を取り入れた授業を実践します。
- 「荒川区学校図書館学習・情報センター化推進校」<荒川区教育委員会指定>  
・司書教諭と学校司書との連携を核とした全校体制による学校図書の活用を図ります。
- 「荒川区尾久地区読書活動活性化モデル校」<荒川区教育委員会指定>  
・小学校と中学校が連携し、読書活動の推進を図ります。

これらの研究は、子供たちが「本に親しみ、生き生きと学ぶ」ための手段です。研究をまとめるために労力を使うのではなく、子供たちが普段から本に親しむためにはどうしたら良いか、子供の心を育てるにはどうしたら良いか、大人が知恵をしぼることに意義があります。後は、子供たちの本来持っている力を信じたいと思います。

読書は、一人のようで一人ではない。  
本を書いている人との二人の時間である。

(『読書力』 斎藤孝)

読書は、強制されるものではありませんが、本好きになるきっかけを作ってあげることがとても重要です。斎藤孝氏の「読書力」という本が一頃話題になりました。その一節が心に残っています。斎藤氏が提言されているように、一冊の良書は、偉大な教師に巡り

合ったのと同じです。自分の人生は一回きりですが、読書によって、何百、何千の他の人生に触れることもできますし、二千年前の賢者と話もできます。本を通して他者を知ることによって心が育ちます。読書は心を育てる最良の方法です。

尾久西小の子供一人一人が、本に親しみ、生き生きと意欲をもって読書に取り組むために、地域や保護者の方々のご理解とご協力をいただきながら、2学期も子供をほめて伸ばしてまいります。